6　芸術（音楽）

| 学校番号 | T2101 |
|---|---|

# 平成３１年度　芸術科

| 教科 | 芸術 | 科目 | 音楽Ⅰ | 単位数 | ２ | 年次 | １～４ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 改訂版　高校生の音楽１（音楽之友社） | | | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | | | |

## 1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

・幅広いジャンルの音楽を理解すること。また多彩な表現方法（歌唱・器楽等）において演奏、表現ができることにより音楽に対する視野を広げましょう。
・学習の到達度は、授業で配付するワークシートや実技テストで評価します。
・音楽の学習は、他の生徒とともに実際にやってみて、試してみてこそ価値あるものとなり、そうして感性が豊かになります。
・楽器になじみのない生徒も感心をもつこと。楽器の特徴や奏法の違いなども理解しよう。

## 2 学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

## 3 学習評価(評価規準と評価方法)

| 観点 | a:音楽への関心・意欲・態度 | b:音楽表現の創意工夫 | c:音楽表現の技能 | d:鑑賞の能力 |
|---|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。 | 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。 | 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。 | 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。 |
| 評価方法 | 観察<br>ワークシート | 観察<br>ワークシート | 演奏の聴取<br>提出作品 | 観察<br>ワークシート |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

| 学期 | 題材名 | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | | 題材の評価規準 | 評価方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | a | b | c | d | | |
| 後期中間考査まで | 青春と音楽 | 【歌唱】<br>翼をください<br>春への憧れ<br>帰る場所 | ○ | ○ | ○ | | a:歌う喜びを味わい、イメージをもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。<br>b:音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気や特質を感受しながら、歌詞の内容と関わらせてどのように歌うか、表現意図をもっている。<br>c:表現したいことを伝えるための歌唱の技能を身に付けている。 | 観察<br>ワークシート<br>演奏の聴取 |
| | 芸術と音楽（劇音楽・独唱） | 【鑑賞】<br>オペラ「カルメン」<br>交響曲第9番「合唱」<br>【器楽】<br>ｱﾆﾒｰｼｮﾝ映画ﾒﾄﾞﾚｰ<br>【歌唱】<br>喜びのうた | ○ | | ○ | | a:劇や物語と音楽の関わりに関心を持ち、意欲的に歌唱したり、演奏したり、鑑賞しようとしている。<br>c:曲想をイメージを持って表現するための技能を身につけている。 | 観察<br>ワークシート<br>演奏の聴取 |
| 後期期末考査まで | アンサンブルを楽しもう | 【器楽】<br>ﾎﾞﾃﾞｨｰﾊﾟｰｶｯｼｮﾝ:<br>You Can Do it！<br>5重奏:日本の詩情<br>【歌唱】<br>野菜の気持ち<br>【鑑賞】<br>交響曲第7番<br>交響詩「魔法使いの弟子」 | ○ | ○ | ○ | | a:楽器の音色や奏法及び、それらの組合せの面白さに関心を持ちそれらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。<br>b:声や楽器の音色の特徴や楽曲の文化的・歴史的背景に関心を持ち主体的に鑑賞しようとしている。<br>c:音楽を形づくっている要素が生み出す特質や雰囲気と歌詞の内容や楽曲の背景との関わりを感じとることができるか。。 | 観察<br>ワークシート<br>演奏の聴取 |

※ 表中の観点について a:音楽への関心・意欲・態度 b:音楽表現の創意工夫
c:音楽表現の技能 d:鑑賞の能力

※ 原則として、「歌唱」「器楽」「創作」の分野は a, b, c の３観点で、「鑑賞」の分野は a, d の２観点で評価をする。

※ 半期を通して全ての観点について評価することとなるが、学習内容（題材）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。